

# 子供たちの発想を生かし，大治町や学校を活性化する活動

－「ふれあいフェスティバル 2017」への参加（企画・運営）を通して－

大治町立大治中学校

<連携校：大治小学校・大治南小学校・大治西小学校>

## 1 実践のねらい

- (1) 毎年，11月に開催される大治町社会福祉協議会主催の「ふれあいフェスティバル」において，町内の小・中学校が連携して地域の幼児からお年寄りまでの幅広い年齢層の方々が関わることができる活動を企画し，来場する町民の皆様をはじめ地域全体を元気にするとともに，イベントを盛り上げる。
- (2) 地域の方々に各校の教育活動を知ってもらい，学校の取組の更なる活性化や子供たちの健全育成に対する地域の意識を高める。
- (3) 各校が地域や企業，事業所と連携した取組の在り方を工夫することで，交流活動について，より一層の充実を図る。

## 2 実践の内容

### (1) 「仲間づくり推進会議」の開催

5月1日（月）に「第1回仲間づくり推進会議」を，各校の児童会・生徒会の役員24名が参加し開催した。今後の活動計画の確認や11月に開催される「ふれあいフェスティバル 2017」に向けての内容検討，各校での取組についての意見交換などが行われた。計4回の会議を通して，進捗状況を確認したり，具体的なアイデアを出し合ったりした。児童生徒らしい柔軟な発想や大治町に寄せる思いを込めた意見が多く出され，生まれ育った町への愛着が感じられる場となった。

また，会議を重ねるにつれ，大治町を活性化するために，地域の方々が積極的に触れ合い，世代を超えた交流ができる機会にしたいとの思いが深まっていった。



【推進会議の様子】

### (2) 「ふれあいフェスティバル 2017」

毎年のフェスティバルでは，中学生ボランティアが催し物の手伝いをしたり，中学校吹奏楽部が演奏をしたりして参加している。今回は，フェスティバルの会場に隣接する大治南小学校の体育館を「仲間づくり会場」として，児童生徒が主体となったイベントの企画・運営を進めることとなった。フェスティバルに来場する多くの方々に各校の様子や児童生徒の活躍を知らせる学校紹介などの「ステージ発表」や参加型の「ゲームコーナー」，中学校の部活動の様子や作品を紹介する「展示・実演コーナー」，中学校の委員会活動と関連させたアルミ缶とペットボトルキャップの「資源回収コーナー」などを設けた。「資源回収コーナー」では，来場者に資源回収に協力していただくとともに，来場者と児童生徒により“仲間づくり推進事業のシンボル”となる大治町マスコットキャラクターをモチーフとした「ペットボトルキャップアート」を制作した。



【学校紹介をする児童】



【ゲームを楽しむ様子】

当日は、天候に恵まれ、300人を超える地域の方々が来場し、大盛況となった。ステージ発表では、各校の代表が自信をもって発表する姿が見られた。特に、学校紹介は、地域の方々に日頃の様子を知っていただくよい機会となった。また、各校のゲームコーナーでは、担当する児童生徒が丁寧に対応し、多くの家族連れや幼児、児童に楽しんでいただくことができた。各コーナーに、中学校美術部が制作したオリジナルスタンプを用意したところ、楽しそうにスタンプを押す来場者の姿が見られた。さらに、孫の活躍する姿を楽しみに来場された祖父母や展示された生徒作品や実演を熱心に御覧になる地域のお年寄りの方々の姿が印象的であった。

### (3) 各校での取組

#### ア 全校縦割り班による「西っ子夏祭り」(大治西小:全学年)

毎年、7月に6年生が中心となって皆が楽しめるお店を開いて遊ぶ、伝統的な行事となっている。24の「スマイル班」に分かれ、低・中・高学年のそれぞれの児童が役割を分担し、協力して準備を進めた。当日は、保護者や地域ボランティアの方々を招き、ゲームを一緒に楽しみながら世代間の交流を深めた。児童からは、「全学年の仲が深まった」「たくさんの人に喜んでもらえてよかった」などの声が聞かれた。



【ボランティアとの交流】

#### イ 中学生による小学生への読み聞かせ活動(大治中:3年生)

毎年、11月に家庭科の学習の一環として近隣の幼稚園に出向いて幼児と触れ合う活動を実施している。一人一人が「手作り絵本」を用いての読み聞かせやグループでの交流活動を行っている。その経験を生かして大治小学校を訪問し、1～3年生の児童を対象として読み聞かせ活動を行った。児童の手作り絵本への関心は高く、読み聞かせ後には、児童は絵本を手にとったり、児童生徒で内容について談笑したりするなど、交流を深めることができた。後日、交流した児童からの感謝の寄せ書きが各学級に届けられた。小中連携の充実につなげられる有意義な取組となった。



【読み聞かせの様子】

#### ウ その他

小学校では、校区コミュニティの方々との植栽活動、介護施設でのふれあい活動、地域の方々との遊びを通しての交流会、毎日の登下校を見守るボランティアの方々への感謝の会、地域の指導者による茶道会、大治五七五(俳句)の募集、大治郷土カルタの作成などが行われた。また、中学校では、福祉施設訪問、地域クリーン活動が行われ、地域の様々な方々と時間を共有することができ、学びの多い取組となった。

## 3 実践の成果と課題

「仲間づくり推進会議」では、大治町や地域の方々のために、自分たちができることを熱心に話し合い、児童生徒の郷土への愛着や奉仕の気持ちが大きく育った。また、「ふれあいフェスティバル」では、地域の方々に各校の様子を知らせ、主体的に活動する多くの児童生徒の姿を見ていただくことで、開かれた学校づくりの一助となった。しかし、学校規模や関係機関との日程調整の関係から、児童生徒のアイデアを十分に具現化できなかった企画もあった。

今後も、大治町の将来を具体的にイメージし、地域を支える一員としての自覚をもつことができる児童生徒の育成を目指し、小・中学校の連携や地域との協働をより推進していきたい。